

循環型社会を目指したまちづくり

京田辺エコパークかなび 代表 ○米田泰子
副代表 橋本範子
事務局長 藤田捷正

1. 活動方針・目的

市と協働して3R活動に取り組み循環型社会の形成を図る（「もったいない」の心を次世代につなぐ）

2. 活動内容

リサイクルプラザ館を拠点としてリユース展示場を開設し、市民から提供を受けた不要品を点検、修理を加え安価で市民に提供するリユース活動の他、会員が講師となり不要品からつくる「もの作り教室」、環境教室の一環として小学4年生を対象に「子ども体験教室」、「もったいない子どもポスター展」を実施、産業祭などのイベントにも出展しており、高い目的意識を持ち生き生きと活動している。

3. 他の活動団体の参考となる事例

リユース展示場開設以来、リユース品として再利用された量は増え続け、平成26年には年間39トンに及んでいるが、反面市民からのリユース品の提供について、まったくリユース品として展示できない不良品の大型家具の引取の要求や持込などが増えた時期があった。そのため引き取りする品に規制をかける情報発信をすることにより、最近では、かなり解決してきた。

リサイクルプラザ館が市中心から離れた焼却施設内に建てられており、交通手段が車か本数の少ないバスのみのため、高齢者が訪れることが少なかったが、リユース展示場の他に近鉄新田辺駅前の商店街にもリユース展示場を新に開設することによって、高齢者にも活用され、商店街の活性化にも貢献している。

小学4年生の焼却施設の見学では、体験学習として不要品でつくる「布ぞうり教室」を実施している。本団体設立当初から小学4年生を対象に「もったいない」をテーマにしたポスター展を開催しており、環境教育の一助となっている。現在では市内全9校から応募があり、将来を担う子ども達にごみの減量等について考えてもらう機会となっている。

4. 今後の課題等

本団体設立準備から10年が経過し、会員数は一定化しているが高齢化が進んでいることから、現在の体制を継続していくことが課題である。

来館者にリピーターが多く新たな来館者の開拓を考える。

リユース品の売上げの使途を考える（これまでに焼却施設見学用の太陽光発電に市に300万円、東日本大震災復興に350万円の寄付）。

京田辺エコパークかなび の取り組み

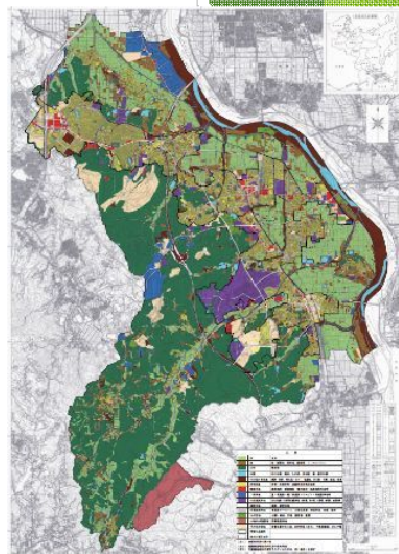


京田辺エコパークかなび
代表 米田 泰子

1

京田辺市とはどんな町？

- ▶ 人口：66,879人、27,124世帯
(平成27年4月1日調。住基ベース)
- ▶ 面積：42.92 km²
→ 人口密度は1,558人。
- ▶ 「緑豊かで健康な文化田園都市」
 - ▶ 大阪・京都・奈良の中間にあり、
鉄道等交通アクセスの利便性が高い。
新規転入者が多く、人口は増加傾向にある。
 - ▶ 市南部に同志社大学・同志社女子大学を有し、
学生のひとり住まいも多い。
 - ▶ 品質日本一を誇るお茶（玉露）が有名。
農村部と都市部との共存。



2

京田辺エコパークかなびの経緯①



- ▶ 平成18年3月 京田辺市のリサイクルプラザを拠点に3Rの諸活動を行う「市と市民が一体となったボランティア組織」を作るため京田辺市が会員を募集
- ▶ 平成19年5月 京田辺エコパークかなび 設立 リユース展示場開設 (会員30余名)

本・食器等 10円～
洋服 100円
家具 500円～
電化製品などは、一部受取制限があります。

京田辺市が施設を無償で貸与し、市民から提供を受けた不要品について点検を行い、必要なものについては修理を加えて、安価で市民に提供するリユース活動を軸に活動。

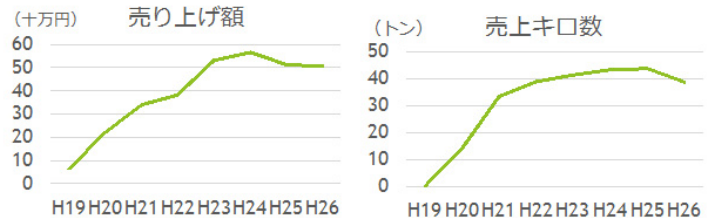
施設の下準備、市民への情報提供などスタート時は大変でしたが、市民にも満足いただける充実した事業に成長

3

京田辺エコパークかなびの経緯②



- ▶ 京田辺エコパークかなび
 - ▶ 来場者 年間 27,980人 (平成26年度)
→ 1ヶ月平均で2,300人を超える来場者。
来場者は年々増加。
 - ▶ 売り上げ 年間 507万円 (平成26年度)
 - ▶ エコ効果 年間 39トン (平成26年度)



- ▶ 売上は、太陽光発電 (H21:300万円) や 東日本大震災復興 (H23:350万円) に寄付

4

京田辺エコパークかなびの経緯③



- ▶ 平成23年6月
新田辺駅前東商店街空き店舗を活用し、キララ店を開設

市と協働：
家賃などのランニングコストは
市が負担しています。



キララ店ですっ!



お客様との交流も大切にしています。

5

その他の活動①



- ▶ 京田辺市産業祭で
リユースフェアの開催

開店前と米田代表。
お客さんが並んでいます

- ▶ 市民向け講座「ものづくり教室」の開催。
着物リフォーム教室（チュニック・帽子
等）布ぞうり教室、季節の飾り物教室



6

その他の活動②

子ども達も会員も生き生き！

- ▶ 小学4年生児童の施設見学にあわせた「体験教室」の開催
 - ▶ 「もったいない」子どもポスター展の開催（市内小学校全校）
 - ▶ 京都府主催の「京都府環境フェスタ」などのイベントへの参加
 - ▶ 新田辺東商店街の「キララフェスティバル」などのイベントへの参加
- ・・・など、さまざまな活動を活発に行っています。



今年のポスター展は690名の作品が集まりました。優秀3作品はシートにしてパッカー車に搭載しています。

7

京都府民生協
突然の取材

受賞歴など

- ▶ リユースを行う市民ボランティア団体としての地道な活動を評価していただき、賞を受賞しています。また、市からの補助金に全く頼らない運営にも他市町村からの視察をたくさん受けています。キララ店のおもしろさからも、取材もたくさん！

受賞歴

- ▶ 平成24年
ゆめづくりまちづくり賞優秀賞 受賞
（国土交通省）
- ▶ 平成25年
リデュース・リユース・リサイクル
推進協議会 会長賞 受賞
- ▶ 平成27年
京都府環境保全功労者表彰 受賞

その他 NHK、民放、新聞取材多数！
「ほんわかテレビ」から「隣の人間国宝」まで！



京都府知事と握手

ゆめづくりの賞の副賞
したれ桜記念植樹



NHKの取材



8

エコパーク関連予算について

- ▶ エコパークかなびの運営は、市から1円の補助金も受けていません。

交通費や、会議のお茶代や、事務用品など、そういう事業に市からの予算をまったく受け取っていないということです。

市から受けているのは、

- ① リユース活動の施設を貸与（空き店舗借上分の経費も含まます）
- ② 協働事業として、職員を配置

(1) リユース量を増やすために、職員が市民の自宅まで大型家具を引き取りに。

会員の高齢化が進み、家具の引き取りが困難なのです。

(2) 職員の常駐のないキララ店に、防犯のために職員を配属。

- ③ 市から依頼された市民講座を行った場合の講師料

交通費や各活動費はリユース品などの売り上げから予算化しています。市と協議しながら出来る限り自主独立を目指しています！

9

今後の課題

- ▶ ボランティア会員の高齢化
 - ・会員数は順調に増加しているが、スタートから8年が経過していることもあり、高齢化が進んでいることから、今の体制を継続していくことが課題
 - ・重い家具などの運搬などの取り扱い
- ▶ 新たな来館者の開拓

今後の展望

- ▶ ホームページや機関誌の充実を図り、広く市民に3Rの推進
- ▶ 小学生の体験学習、ポスター展など環境教育を通じて「もったいない！」の啓発
- ▶ 活動内容を高評価されることにより、市民に3Rの環を拡大
- ▶ 他市からの視察が多いため、全国で本会のように市民が行政と協働で3Rに取り組む活動が広がることを期待

10